「シルクロードの自画像」1981

町田市立国際版画美術館企画展

生誕百年

関野準一郎展

2014 年 6 月 21 日（土）→8 月 3 日（日）

青森に生まれた関野準一郎（せきの じゅんいちろう、**1914-88**）。中学時代から版画誌を発行し、弱冠 **18** 歳で日本創作版画協会展入選を果たします。**25** 歳で上京すると恩地孝四郎に師事、「一木会（いちもくかい）」主要メンバーとして活躍します。木版、エッチング、リトグラフなどさまざまな技法を駆使し、風景や人物など多様な主題でおよそ **60** 年にわたり制作を続けました。
戦後の多色刷り木版作品を中心とする約 **160** 点の作品により、その足跡を紹介します。

関野準一郎について

関野準一郎は 1914（大正 3）年、青森市に生まれました。実家は魚粕の肥料問屋です。旧制青森中学校の級友である根市良三や佐藤米次郎らの版画同人誌に加わり、木版画制作を始めます。中学卒業後は家業を手伝いながら、油彩や版画の制作に励み、18 歳で日本版画協会展に初入選をとげます。画家・今純三のもとに通ってエッチングやリトグラフの技法を修得し、ついには西田武雄が主宰する日本エッチング研究所からエッチングプレスを購入、本格的な制作に取り組むようになります。エッチング作品「埠頭」で帝展洋画部に入選したのは 1935（昭和 10）年、21 歳の時です。

「河畔」 1935

青森創作版画研究会 夢人社（むじんしゃ）での活動も続け、創作版画誌を交換することで日本各地の同好の士との交流を深めていきました。文学青年でもあった関野は印象深い文章も版画誌に寄せています。相次ぐ不況と高まる軍靴の響き、そうした時代の中で家業は衰運の一途をたどります。画家になることを許された関野は 1939（昭和 14）年、25 歳で上京、創作版画のリーダー的存在であった恩地孝四郎の門を叩き、やがて山口源とともに師である恩地を囲んでの版画研究会「一木会」を発足させます。戦後まで続いたこの会は創作版画から現代版画への橋渡しの役割を果たしたといえましょう。

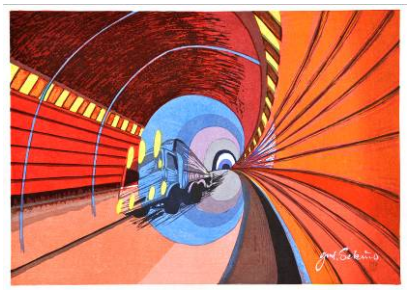
「黒布貝」1942

「雪の摺上川」 1952

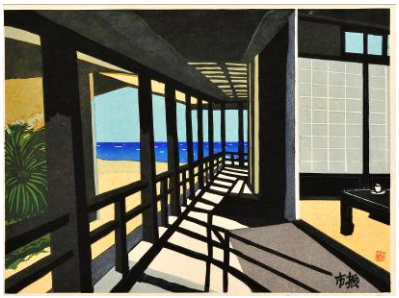
終戦を迎えた関野は、戦時中も続けていた日本版画協会展と国画会展への出品を重ねていきます。進駐軍関係者による作品購入もあり、戦後の日本版画は急速な復興を遂げ、関野もその恩恵にあずかります。1951（昭和26）年には自宅に銅版画研究会を開設、旧友の駒井哲郎とともに、浜田知明や小林ドンゲら若い世代に、技法はもちろんインクの製法やプレス機の設計など銅版画にかかわるあらゆる知識を伝えていきました。

1950年代、関野の活躍の場は海外へと広がっていきます。海外の版画展への出品、そして1958（昭和33）年にはジャパン・ソサエティの招待で半年のあいだアメリカ各地に滞在、日本の木版画について講義や制作実演を行い、さらにヨーロッパ各国を訪ねます。海外への旅は、日本の風景を見直す契機ともなりました。帰国後とりかかった『東海道五十三次』のシリーズは 15 年をかけ完成、その後も『奥の細道版画柵』をはじめとする数々の街道シリーズの作品を制作し続けました。国内外での取材旅行をかさね、「旅」は関野の重要な主題となっていったのです。

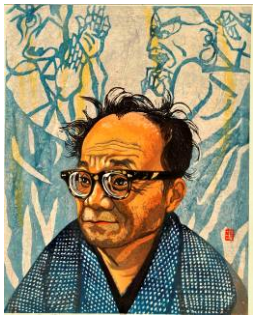
「墓とニューヨーク」 1959



『東海道五十三次』より「岡部」 1973



『奥の細道版画柵』より「市振」1982

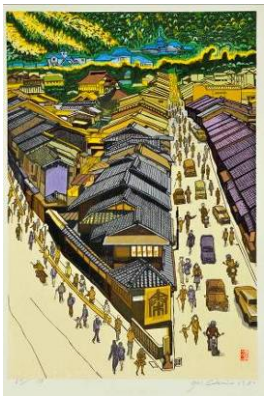


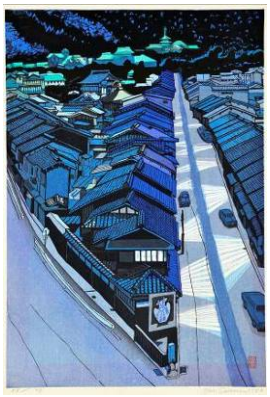
「棟方志功像」 1968

もうひとつの大切な主題は「人物」です。文学者、版画家、役者、力士、舞妓、世界の子どもたち、そして家族――関野はその幅広い関心を反映して、有名無名のさまざまな人物を描いています。それらは依頼されたものではなく、描かせてくださいと頼んで制作した肖像です。人間に対する関心と観察眼は、『版画を築いた人々』、『わが版画師たち』といった著作からも知ることができます。

自らを導いてくれた先達や、同じ時代を走り続けた仲間たちの姿を、温かく、時にユーモアをまじえて書き、近現代日本版画史の貴重な資料ともなっています。

明るく華やかな色彩、多彩な主題と表現方法――みずみずしい好奇心を持ち、真摯かつ溌剌と版画に取り組んだ関野。生涯に制作した作品は1,000点以上に及ぶとも言われます。この展覧会では、戦後の多色刷木版の作品を中心とする約160点の作品により関野準一郎の足跡をご紹介します。





「京の朝」
「京の昼」
「京の夕」
「京の夜」
1979-80

「生誕百年　関野準一郎」展

2014 年 6 月 21 日（土）から 8 月 3 日（日）
♪月曜休館、ただし 7 月 21 日（月祝）は開館、翌 22 日（火）は休館

平　日　　10:00～17:00（入館は 16:30 まで）
土・日・祝日　10:00～17:30（入館は 17:00 まで）

入場料金　　一般　600（500）円／大学・高校生と 65 歳以上　300（200）円／
中学生以下は無料
♪（　）内は 20 名以上の団体料金
♪展覧会初日 6/21（土）は入場無料

同時開催　　〈旅と人を描く～五つの「五十三次」〉　6 月 18 日(水)から 9 月 23 日(火・祝)
常設展示室　　♪会期中展示替を行います

問合せ先:
町田市立国際版画美術館
〒194-0013　東京都町田市原町田 4-28-1
町田市イベントダイヤル　042-724-5656
公式サイト　http://hanga-museum.jp/

「私の黒い猫」1964

関連催事

トークイベント

「関野準一郎の木版画技法」

関野洋作（版画家）

7 月 21 日（祝） 13:30～15:00

会場：1 階講堂

♪関野の次男で長年にわたり制作助手をつとめた関野洋作氏に、刷りの実演をまじえながらお話いただきます。

関野洋作 「牡丹」 2013

ギャラリートーク

6 月 29 日(日)　本展覧会担当学芸員

7 月 13 日（日）　村田哲朗（当館館長）

7 月 27 日（日）　関野洋作（版画家）

♪各日 14:00 から 45 分程度。観覧券をご用意のうえ、2 階企画展示室入口にお集まりください。三人三様のトークをお楽しみ下さい。

プロムナード・コンサート

山口友由実（ピアノ）

8 月 2 日（土） ①13:00～ ②15:00～（各回 30 分程度）

会場：エントランスホール

♪どなたでもご鑑賞いただけますが、お席の用意はございません。

夏休み☆わくわくワークシート

7 月 19 日(土)－8 月 3 日(日)

♪次回企画展「モンスターを探せ!!」の会期中 8 月 9 日(土)－31 日(日)も開催。

対象：小中学生

♪展示を見て問題に挑戦！参加してくれた人にはたのしいプレゼントがあるよ！

美術館で語りあおう トークフリーデー

会期中の水曜と土曜日はトークフリーデー。「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただこうという試みです。小さなお子さま連れの方も気兼ねせず、ぜひご入場ください。

「楽屋の文五郎」 1947